

スウェーデンクローナとノルウェークローネ

スウェーデンは独自色と革新性の強い国だ。金融政策において世界で最初にインフレ目標を採用した。マイナス金利の導入も最初だ。いずれの政策もスウェーデンに追随する国が増えた。

だが今回のパンデミック対策では事情が違った。規制の少ない独自政策は失敗した。スウェーデンは他の欧州諸国のようなロックダウンはせず、集団免疫を目指した。だが死者数の急増により、先月末に国王は失敗宣言をしたのに続いて、政府も先週ロックダウンを可能にする法律の施行に踏み切った。マスクも義務付け欧州諸国の後を追うことになった。

スウェーデンではそれまで経済活動の制約も少なく、経済へのダメージも比較的少なかった。マイナス金利からの脱出も導入した国の中では最も早かった。現在の政策金利はゼロ%だ。

直近のドルスウェーデンクローナは8.24水準だが、昨年1年間ではスウェーデンクローナ(SEK)は対ドルで15%ほど上昇した。パンデミックの中で高い上昇率を示した通貨グループに属する。ドル安の背景もある。

一方同じスカンジナビアの隣国ノルウェーの通貨クローネ(NOK)は対ドルで昨年初と末との比較では4%ほどの上昇に留まった。NOKは資源国通貨で原油価格との相関が高い。昨年は全般的に原油価格が低調だった。政策金利はゼロ%とスウェーデンと同じ水準だ。

コロナウィルスの影響ではこれまでの死者数は最近1週間のスウェーデンの死者数とほぼ同水準だ。人口はスウェーデンの半分ほどだが、大きな違いだ。ノルウェーの死者数が少ないというよりもスウェーデンの最近の深刻さが伺われる。

そこでNOK/SEKのレートだが、昨年は1.06水準を高値に0.87水準が安値の範囲で推移した。3月の初旬まではNOKの方が高かった(1.0以上)がその後はSEKが上回っていた。(1.0以下)直近では0.97水準にある。

スウェーデンは今後ロックダウンの実施などの対策で経済活動が制限される可能性が高く、景気にマイナスに作用する。再びマイナス金利に下がる可能性も出てくる。一方、原油価格は当面堅調な動きが見込まれるし、ノルウェーではコロナの影響も比較的抑えられている。そうした点を考慮すると今年の NOK/SEK は 1, 0 を超える局面が長くなる可能性が高い。